

第3回小牧市水道事業経営懇話会 議事録

1 日時

令和元年8月9日（金）午前10時から午前11時30分まで

2 場所

小牧市役所 本庁舎4階 402会議室

3 出席委員（敬称略）

萩原 聡央 名古屋経済大学 法学部 教授

平山 修久 名古屋大学 減災連携研究センター 准教授

北出 恵子 ひまわり消費研究会 会長

酒井 美代子 小牧市女性の会 会長

廣野 友巳 小牧商工会議所 常議員（デリカ食品工業株式会社 代表取締役）

4 事務局

牧野 治 上下水道部長

梶田達人 上下水道部次長

伊藤裕介 上下水道経営課長

高木康昌 上下水道業務課長

丹羽昌利 上下水道施設課長

早稲田宏 上下水道施設課長補佐

石田哲也 上下水道経営課経営係長

北 賢司 上下水道経営課水道経理係長

箕浦光高 上下水道経営課経営係主事

5 傍聴者

なし

6 内容

【事務局 梶田次長】

定刻となりましたので、只今から第3回小牧市水道事業経営懇話会を開催致します。本日はお忙しい中、また猛暑が続く中、ご出席いただき、ありがとうございます。本日、全体の司会を務めさせていただきます、上下水道部次長の梶田です。宜しく願い致します。

会議は公開となっておりますが、傍聴の方はいらっしゃいません。尚、佐橋委員におかれましては、欠席のご連絡を事前にいただいております。

また会議中に記録用と致しまして録音及び写真撮影をさせていただきますので、ご了解くださいますようお願い致します。それでは開会にあたり、上下水道部長の牧野よりご挨拶申し上げます。

【事務局 牧野部長】

改めまして皆さん、おはようございます。本日は第3回水道事業経営懇話会に暑い中、またお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は前回第2回5月23日ですが、ビジョンの第3章までの説明をさせていただき、活発なご意見等をいただきました。本日は、その内容を修正したものと、第4章と5章についての説明を予定しております。今回も委員の皆様にはご活発なご意見等をお願いしまして、冒頭にあたる挨拶とさせていただきます。本日も宜しくお願い致します。

【事務局 梶田次長】

ここで第2回の会議録の公開について報告させていただきます。第2回の会議録につきましては委員の皆様を確認していただき、修正等を加えた後、市のホームページで公開しております。それでは萩原座長に以降の進行につきましてお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。

【萩原座長】

皆様、改めましておはようございます。今回も前回に引き続きまして、小牧市水道ビジョンの素案について検討してまいります。本日皆様と一緒に議論しながら、忌憚ないご意見を出していただきまして、実りのある会にしていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。それでは次第に沿って進めさせていただきます。私も着座して話をさせていただきます。

それでは次第の2、前回の意見及び意見等に対する考え方について、事務局から説明を宜しくお願い致します。

【事務局 伊藤課長・丹羽課長】

(前回の意見、及び意見に対する考え方について説明)

【萩原座長】

ありがとうございました。事務局の説明が終わりました。只今の説明につきまして、ご意見、ご質問などございましたら発言いただければと思いますがどうでしょうか。

【平山委員】

何点かすみません。1点目は本当に丁寧にデータを揃えていただいて、大変ありがたく

思っています。ここまできちんとしたデータが出てきたら、やっぱりちょっと欲張りになってしまうのですが。例えば2ページ目の給水戸数と給水人口について、人口は減少傾向だが、給水戸数は増加傾向ということは、これは核家族化が進んでいて、1戸当たりの水の使用量が減っているということだと思うんですけど。それは1人1日当たりの給水量とは違うと思うので、どこかで文章としては書いておいてもいいのかなと思います。

逆に言うと1人1日の平均給水量に平均世帯人数を掛けないと、一世帯当たりのは出てこない。この人口は減っているんだけど戸数が増えているんだ。それはどういうことなんだといったことは、下線の後に核家族化であるとか、一戸当たり、一世帯当たりの人員数がやっぱり小牧市でも減少になっているので、というようなことが少し丁寧に書いてあってもいいのかなと思います。

2点目は、参考資料1です。家庭用が減ってる中、工場用が維持、或いは微増、少なくとも維持はしていて、大きく減っていないということは、小牧市或いは、小牧市上下水道部が営業努力をやっていて、地域の経済力の向上に貢献しているということが、この参考資料1から見てとれないか、と思いました。

3点目は参考資料2です。こういう形でしっかりと出していただいて、耐震性もこういう形でまとめていただくと、市民の方も、どういう管を今どれだけ使っているのかというのがわかる資料かと思います。去年の大阪北部の地震でもダクタイル鋳鉄管でも古いA形とかが被災をしていたので、この耐震継手と言われる、いわゆるGX、NS、SⅡ形だと思えますが、それとその他といったものが、この385,000メートルの内、どの程度が耐震継手なのかといったことも併せて示しておいた方がいいのかと思いました。

もう1点いいですか？給水原価と供給単価を示していただきましたが、必ずしもこれで利益をあげているわけではないということをどう表現するか。或いは理解していただくのかといったことを、少し表現を工夫しないといけないのかなと思います。

例えば、単価で見ると赤字ではないので、その分、経営の改善とか施設の更新とか、ここでは経営に必要な経費を賄うことができているという、経営に必要という形ですが、もっと具体的にこういう状況なので、しっかりと管路の更新であるとか、1年の更新も他の水道事業体に比べると更新率が大きいであるとか、何かそういったことをしっかりと説明しないと、水道料金、供給単価が高いから儲けているのではないかという風に誤解を招きかねないと思います。でも、キャッシュフローで見ると、そんな利益ないですよ、ということをきちんと説明しないと、誤解を招くかなと思います。

【萩原座長】

1つずついきましょう。2ページの給水戸数と給水人口について、ご意見いただきました。

【事務局 伊藤課長】

この表から現状はわかるんですけど、実際どうであるのかの説明が足りないなと感じま

したので、表現を少し加えていきたいと考えております。

【萩原座長】

参考資料1。これ実際に工場のところが増えているけれど、工場に対して、営業努力を上水道部の方でやっているじゃないかという。この点について、もしアピールできたらね。実際はどうですか。

【事務局 伊藤課長】

営業活動まではいくかどうかわかりませんが、企業にお邪魔するなどという活動もしていた時期もありますので、その辺りもPRにもし使えるなら、そういった表現についても少し検討させていただきたいと思います。

【萩原座長】

この中に反映させていただいたり、あと家庭数が減少していて、そここのところの分析とかがもしできたら、併せてやってもらえたらと思います。あと参考資料2ですけれど、さっきのダクタイル鋳鉄管。こちら大阪の実例があって、古いA形でも被害があった。どの程度、耐震の裏付けができていくかということですね。耐震継手ですね、これがどの程度、小牧市では採用されているのか。こういうのはわかるんですか？

【事務局 丹羽課長】

私どもの管理している水道管でございますので、あらかじめ把握はしております。ただこの表につきましては、この懇話会でお示しする資料ということで作成しております、公表する資料ではございません。

【萩原座長】

これは要するに将来的には例えば小牧市民の方に、今そういう385,630メートルあるんだけど、その内これぐらいはA形だよとか。そういう細かい資料とか、例えばそういうのは公表したりすることは予定されない？そこまで今回のこのビジョンでは関係ないかもしれませんが。

【事務局 丹羽課長】

そうですね。我々も情報として市民に公開するべきだと思いますので、改めて検討させていただきたいと思います。

【萩原座長】

4点目ですけれど、この資料の、その販売単価と製造単価。こちらの方では小牧市は、確

かに黒字なんですけれど、実際黒字で儲けているよと誤解されないようにするための記述、工夫。こちらご検討いただけるのでしょうか。

【事務局 伊藤課長】

ここも大変大事なことでありまして、確かに決算上は、純利益が出ておるところですけども。じゃあ純利益分が儲けかという、それが資本的の方に回って行って、維持管理の方に使っておりますので、その辺の表現ですね。近々に、目先が赤字になって大変だという風に捉えられても困りますし。かといって、このまま安泰かという風に思われてもいけませんので、その辺りも次回お示しをします10年計画。今後更新のための費用はどれくらい要するのか。それに見合った収入は確保できるのかということもお示しをさせていただきたいと思っております。

【萩原座長】

大事なポイントでしょうからね。その点、是非宜しくお願いします。

【廣野委員】

12ページの財務に関する業務指標の中で、2017年が10円ですよ、供給単価と給水原価の差額が。類似平均も10円です。2015年から7円、5円、10円と推移するわけですね。2015年から。ですから、これ単純に10円で合うのかどうか。そういう業務指標としては出てくるんですけども、じゃあ実際何円あればいいんだと。円滑な経営というか、継続ですか、経営の。それがちょっと逆に表に出した方が今後動きやすいんじゃないかなと。そういう努力の値上げを視野に入れてですね、僕、値上げ賛成なので。そういうことをちょっとお示しされたらいいかなというのと。

あと、この水道管の種類とか、総距離もよくわかるんですけども、参考資料3の中の一
番肝心な3番がちょっと。やはり適切な維持管理という中で、これ事業計画の中で想定事業費も悪くなる前に替えるという、先手を打つという形からいけば、一番組みやすい計画じゃないかなと思わしてね。これがはっきり示された方が、市としては災害も当然対応を対応していくということで、BCPの問題も出てくると思うんですけどね。それ以前に先行してどんどん今いいんだけど、変えちゃっているよと。老朽化。その老朽化の順番で今1.05%という形で更新率が出てきますけど、これのスピードアップを図りますとかですね。そちらの方にどんどん事業費を組み入れて使いますから上げてくれとかですね。その話の中で事業計画というのが一番先行して、お客さん。お客さんというか市民に安心を与えるという。これだけ進んでいるよと、やっているよと、先行して。そういうことを示されたら、平山さんがおっしゃったように一生懸命やっているんだよという、非常に先行していますよということをPRできると思うんですね。

その辺で公開される、されないは別にして、今の水道事業ビジョンの経営戦略の素案の

修正版が出ていまして。最初にいただいたものから修正版を見て、非常にグレードアップしていると思いますから、是非ともその辺のことを。市民の知りたい部分を、痒い所を教えてください。そういう形でピンポイントでやられるといいなと思います。

【萩原座長】

その業務指標等に関連して金銭的な部分ですよね。その部分についてのご指摘、まずご意見、今後このビジョンの中に反映していくとか何かございますか。

【事務局 伊藤課長】

まず1点目でございます。給水原価と供給単価の関係でございますが、やはり計画期間である10年間で一体どれぐらいのお金が必要なのかというのは、お示しをしなければなりません。その中でいくらが妥当かという、そういったところもお示しができればと思っております。

【萩原座長】

2点目の参考資料3で、実際に管路更新率1.05%だけど、先行して進めているよという話。これも、ここでは参考資料が出てくるんだけど、市民に対しても、ビジョンとか或いは戦略とかで何らかの形で、いずれ概要は出てくるんだけど、市民にそうしたことを知らしめるというか、そういう必要性もあるんじゃないのというご意見。

【事務局 伊藤課長】

法定耐用年数で更新していくと確かに理想というか、理想なんですけれども。かなり経費が前倒しでかかってくるとか、まだ使える管もあるということで、実際の耐用年数というのを示されているところであります。法定耐用年数ではなく実の耐用年数。それとやはり布設した年度に偏りがありますので、そのまま単純に何年後で更新していきますと、一気に経費がかかるというところもありますので、その辺は少し平準化を図りながら、今後更新の計画の方を進めていきたいなと思います。

【萩原座長】

一つのご指摘が平準化というのも大事なんですけれど、スピードアップしてやっているよと。市民の安心というところだと思うんですよ。だから市としてはお金の予算のこともあるから、パーンとこういうしっかり数字で示すことができないかもしれませんが、スピードアップを図っているよとか、先行して進めているよという記述があってもいいのかなと思って。その点ご検討いただければありがたいと。その他に何かご意見等ございますか。

【北出委員】

ちょっと外れるかもしれないですけど、皆さんたぶんご覧になっているかと思いますが、中日新聞の7月25日にガス管の劣化をAIで予測をするという記事があったんです。それでこれ一応ガス管を劣化しているのを調べるために東邦ガスさんが、アメリカのシリコンバレーのベンチャー企業と共同で開発したそうなんです。これもやはり水道にも利用できるということで、修繕費用を3割方節約できたというようなことが書いてあるんです。だからこんなことも今まで結果を図るために地域、ここが古いからここをやろうとかという風じゃなくて、AIでやれるものがあるんだなと思って、これちょっと記事をとったんですが。

【萩原座長】

ガス管にAIということなんですけれど、小牧市としては、水道管の劣化状況をどのような形で今お調べになっているのでしょうか？やっぱり熟練の方の手で調べているのでしょうか？

【事務局 丹羽課長】

小牧市では、どこの市町でもやっているんですけども、基本的にエリアを決めた漏水調査を基本に進めています。

漏水のあるところから順次直していくということで、一般的な進め方はそうです。それとあとは耐用年数、それから布設年度を考慮しながら、優先順位を決めて進めているという状態でございます。

【萩原座長】

具体的に漏水が調査されるんでしょうけれど、どういう形でその漏水調査をやるの？何か機械とか使ってやるんですか。

【事務局 丹羽課長】

そうです。夜間、音を聞いたりとか。結局マンパワーというところが多いんですけども。

【萩原座長】

人ですね。

【事務局 丹羽課長】

はい。

【酒井委員】

それが一番安心。

【萩原座長】

今後 AI については、いずれ検討するのかもしれませんが。現在は人でやっている。

【平山委員】

5 年、10 年の話ではないような気はします。

【廣野委員】

確かにそうですね。随分先の話です。

【平山委員】

20 年先はわかりませんが。学というか、研究がもっともっと進めばいいですけど。今回のビジョンの対象期間内に、どうのこうのというのは。でも、そういった情報はやはり小牧市上下水道部としてもキャッチアップはしておかないといけないと思います。

【萩原座長】

ありがとうございます。その他何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

【平山委員】

廣野委員の話でいくと 10 ページの資本的収支が 11 億 4,000 万の不足となって、それを内部留保で補填ということなんですけど。12 ページで今、料金でいくと原価と単価でいくと、単純にいくと、一応 2017 年だとプラス 10 ということなんですけど。今、年間で 2,000 万立米配っているんですよね。そうすると 11 億 4,000 万を 2,000 万立米で割ると、1 立米 57 円と出てくるので、本当はこれを内部留保から補填しないと、57 円水道料金をもっとたくさんもらわないといけないという、そういう計算になるんですか？そうではない？どうなんですか？

【事務局 伊藤課長】

概ねそういう計算になると。それぐらい上げないとですね。

【平山委員】

内部留保金がなくなっちゃうと、57 円値上げということ？

【廣野委員】

だから帳面上だけ作ればいい。入れたり戻したりしながら、数字はそれでやるべきだ。

採算、実質はやっぱり足りない。要は今後、新しい事業もやっていけない状況にあるというね。

【平山委員】

私も経営はちょっとはかじってはいるんですけど、全然経営者でも何でもないので。廣野委員とかの経営的な観点のことをもう少しきちっと書かないと。どういう経営状態なのかといったものを、一般の市民の方ってやっぱりわからないようになりますので。

【廣野委員】

そうそう。本当に水道料金、これで正しく使われているのかどうかという。足りているのかどうか。その辺のところを大きくした方が。より具体化されたね。非常に色々なことがやりやすいという。

【北出委員】

やっぱり市民にわかりやすいもので。例えばこの内部留保って、こんなにたくさんあるの？っていう風に思ってしまうんですね。こういうものも、もう少し市民にわかりやすい形で。

【酒井委員】

すぐ思いますよね。留保これだけあるんなら、いいじゃないって思っちゃいます。上げなくてもいいじゃないって思っちゃいます。

【北出委員】

この辺もね、もう少し一般の人にもわかりやすい。

【酒井委員】

そうですね。前回も私たぶん言ったと思うんですけど、小牧の水道代、安いと思います。安いです。料金。だからもう少し本当に経営的にこういう内部留保を補填していくんじゃないかと、もう少し財政的にできるなら、説明を上手くしていただいて、値上げされてもいいんじゃないかなと、本当に。難しいことはわかりません、先生方みたいに。私わからないですけど。単純にそう思いますけど。

【北出委員】

結局、一番市民にわかりやすいのは、その設備投資ですよ。やっぱりこの災害とかそういうことに関して、やっぱりライフラインが切断されることが一番不安な要素なので。ということ強調すれば、市民の理解は。

【酒井委員】

そうですね。

【平山委員】

少し乱暴な言い方はしますが、やっぱりこういう観点で安かろう、悪かろうにはしませんというメッセージをしっかりと出さないといけないと思います。そのままそのメッセージは使えないと思うのですけど。

【萩原座長】

今のご指摘をやはりこのビジョンの中で示すことができれば良いと思いますし。その点、作文というか、文章大変だと思いますけれど、いたずらに市民の不安を煽るという書き方ではなくて、これだけやっていくよ。だから今のこの留保があるけれども、このままじゃいけないよという、そのニュアンスを含めてやっていくと、おそらく第4章、目指すべき方向性も書きやすくなってくるんじゃないかなと思いますので。その点、ご検討いただければという風に思います。その他に何かご意見ございますでしょうか。

それでは、色々ご検討いただいた事務局の説明に関するご意見は、終了したいと思いついて、次第3に移ります。次第3の小牧市水道事業ビジョン・経営戦略素案について、事務局からの説明をお願い致します。

【事務局 伊藤課長】

(小牧市水道事業ビジョン経営戦略素案についての説明)

【萩原座長】

事務局の説明は終わりました。只今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、ご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【平山委員】

4章、5章で内容、中身といいますか、コンテンツがどうだということではないんです。要はここに書いてあることは、それはしっかりとやっていかないといけないと思うんですね。ただ一方で、これを市民の方が受けとった時に、本当に水道がどういう方向に向かっているのかといったものが見えてくるのかなというのが、ちょっと疑問に思います。要は、基本目標というのはすごくメッセージ性が強い目標になってはいるのですが、中身がやはりすごく専門性も上がって。勿論上げないといけないですけど、そこの乖離が少しあるのかなと思いました。

なので、例えば24ページの小牧市の施策体系図、基本目標、安全・強靱・持続。これは

新水道ビジョンに沿ってということなので、これはそれでいいのですけど。じゃあ例えばヒトとかモノ、要は施設、コト。コトと言うと計画とかコミュニケーションとか、そういったことになるかもしれませんが。そういう横軸を通した時に、安全などところではヒトとモノとコトってどういうことをやるの？とか、強靱だとヒトとモノとコトでどういうことをやるの？というのをもう少し。且つ市民、或いはお客様にも、こういったことはしっかりと考えていただきたいとか、一緒にやっていくんだという。そういうものをもっと見せた方がいいのかなと感じました。

なので、色々な水道事業体で出されているようなビジョンであるとか将来の長期的な経営戦略的なものでいくと、これで一応、合格点は取れてはいると思うんですけど、本当にこれが小牧市民の方々が受け取って、本当にちゃんと小牧市水道の現状をわかっていただく、或いは目指すべきところをわかっていただくのかというと、もう少し工夫がいるのかな。ただ、どういう工夫というのは、一つはヒトとかモノとかコトという軸でも、ちょっと横串通して整理をしてみるというのものもあるのかなということが私の意見なので。これは実際には北出委員とか酒井委員の意見をしっかりと聞いていただいた方がいいのかなという風には思いました。

なので、大きな方向性とする、やっぱり市民に知っていただく。それを踏まえて支えていただく。そのための資料なんだという。そういうのが見えるようなところに少し、もう少し検討する余地があるのかなという風には思います。なので、どちらかという見せ方という部分かもしれませんが。すみません。ボヤッとしたことしか言えなくて申し訳ないですけど。

【北出委員】

少し視点が違うかもしれませんが。やはり水の安全ということを市民は非常に問題視すると思うんですね。ずっと職員がだんだん減って行って、どうかということが書いてあると非常に不安な感じがしたんです。だからこの辺をやっぱりもう少しきっちりしていただきたいなと思います。私、時々犬山のあそこの浄水場を、あそこ見学させていただきましたけど。順番にいくように。という水の流れというのか、取水というのか。そういうものも含めて皆さんがわかるといいのかなと思います。

【廣野委員】

これも仕方ないですよ。市役所の公務員の形で、民間の水道事業、参入するかというと、私なら断るとい、無理だとい。というのは、ある程度決まった収入がないと事業が行えない。収入の安定は最優先するので。

それで目標はもう非常に良くて、達成のための具体的な手段というのも書いてあるので、これをどうやってやっていくかということは、細部については今後展開していくということになるとは思いますけども。銀行に出す事業計画ならばこれで銀行には通りますけど、や

っぱりこの先程、平山先生が出ているようないっぱい話の中でもう少し細かい、市民の方にわかるように。ちょっと失礼ですけども、もう少し下げて。それで皆さんにわかっているだけぐらいまでの文章までもっていかない。非常にいいことが書いてあって、もう素晴らしいなど。じゃあ何からやるの、いつやるの、どこからという具体的なものを示したほうがいいと思います。だから私の知り合いで、走っている管はいいです。これ何十何万走っている管は。逆に市の管から引き込みしたお店の中だとか、家庭の中での漏水。この前、あるうどん屋さんであったんですけども。いわゆる水道料金が低い、高いとおかしいといったら、引き込みの自分のところで漏水していたとね。営業をやっておられるので、ちょっと使っているかなと。それがだんだん高くなって。でもメーターが上がっているから払ってもらわないといけないわね。だからそういうものの啓蒙とか啓発をやったりやってあげられると。すぐ連絡、いいですよ。水の救急車で言ったら、そう言っていますけど。磁石で貼るのは。ああいう救急隊とか言っていますけど、やっぱり市が本当にいいお水を非常に供給する責任があるという部分でやってもらっているという安心感をね。これはpH（ペーハー）にしても全てですけども。僕はこの辺は崩した方がいいかなという。どうせ皆さんにお渡しするのが。悪いわけじゃなく、非常に僕もこういうもの。じゃあこれの裏付けで数字で出せといったら、これに数字で落とし込んでいだけで、具体的な事業計画、出てくると思うんですけどもね。

だから先程このページにはない基本目標2の応急給水の中で、地域と連携した災害対応力強化の取り組みに努めますって、よくわかるんですけど。先程おっしゃった防災訓練をやりましょうと、水の。そういうことによって、より早く水を供給できますよとか。或いは貯蓄するタンク、貯水タンクはこういう計画で作る予定ですよ、供給のための。工場を作る時に雨水を受けるって、色々計画立てて大変ですけど、あれも。やっぱりこういう飲み水についても、そういうもの、タンクがありますよとかね。それから当然、緊急避難場所までの供給管については強靱なものにしますけど、じゃあ具体的に避難場所がここですから、ここのこの管をやりますよとか。情報公開というオープンにしていくことによって、非常に具体的なものが市民に行き渡ると思うんですよ。

【酒井委員】

とても素晴らしい計画でいいと思うんですけど。本当に私、おばさん目線で考えると、ちょっとこれ理解できないところもありますので。本当に先程、意見が出ていましたけど、もう少し市民にお話しになるんだったら、もう少し簡単に。こんなに小さく書いていただかなくても、たぶんいいと思いますので、出していただければと思いますし。

ちょっと違う話なんですけど、水道の検針にいらっしゃる方は、あれは市の職員じゃないんだと思うんですけど、いらっしゃる方がある時うちの水道を見て、「えらい前回よりすごくメーターが上がっているけど漏れていませんか？」って言って教えてくださったことがありまして。確かにそれがどこか漏水していたから直しましたけど。そういう親切な

ことを言っただけということも、ちょっと報告をしたいなと思いました。

【萩原座長】

色々な意見をいただいています、その中ではやはり市民目線に立ったビジョンということでしょうね。おそらくパブリックコメントも今後行っていく中で、やはりわかりやすさということが大事かもしれません。そして厚労省含め国とか、何というのかな。方向性に適った形で。だから上から見ると、おそらく優等生なこのビジョンだろうけれども、市民から見るとわかりにくいというんだったら良くないと思いますので。そうした点で市民に知ってもらい、市民に支えてもらおうと先程、平山先生おっしゃいました。だからこういう観点、とても大切なのかなと思いました。ですから、本当に市民がわかりやすいように。これこそ難しいと思いますよ。わかりやすく書くというのは私も非常に難しいと思うんですけど、でもそここのところのご苦労というか、検討も是非是非やっていただきたいなという風に思います。

あと先程もそうですね。廣野さんからもお話しがありましたけれども、色々取り組む中で具体例を書き込むというのは大事かもしれないと、さっき聞いていて思ったんです。災害対応力強化の取り組みに努めるというけど、実際に防災訓練やってどうするんだって。そうしたことを例えば書いたらいいなと。具体例とか挙げて、或いは図示したりすると、市民にわかりやすくなるかもしれません。だからいずれにしても集約すれば、市民目線に立ったビジョンの作成というところを是非ご検討いただければなという風に思いました。あと検針、漏水がわかったという話ですよ。

【酒井委員】

はい。

【萩原座長】

そういうことというのは大事ですね。だからそういうのもどこかに書くことができるかわからないですけど、先程の小牧市の水道事業において、例えば民間活力やってみたけれども、実際サービス低下につながっていないとか、市民に対して、しっかりとサービスの提供ができますよということのアピールポイントの一つになるかもしれません。ご検討いただければと思います。その他に何かご意見等は。

【平山委員】

やっぱりビジョンとか、或いは今後の経営戦略であるとか、或いは戦略計画であるとか、そういう観点で見ると、やっぱり具体的な数値目標というのが本当はあった方がいいような気はするんです。

例えば、ここに色々具体的に書いていますけれども、じゃあ漏水箇所の早期発見に努め

ます。じゃあ例えば年間何件、早期発見ができるように、今後5年間では年間何件ぐらいはきちんと早期の発見ができるようにしていきますとあるとか。先程の訓練とかだったら、年に何回は防災、或いは危機管理局と共同してやりますとあるとか。

何かそういうビジョンなので、自分たちがどういう姿になりたいか。姿というのはやはり定性的な面と定量的な面できちんと見れる。或いは見せることができる、或いは評価できるという部分を考えて、勿論、すべて数値目標をとるわけではないですけど、書き込めるところは何かそういったものをしっかり書き込んで、それをチェックしながら、じゃあ本当にこういう今の状況でいいのか、或いは今の水道料金でいいのか、或いはこの中期、或いはこのビジョン、或いは経営戦略がこのままで大丈夫なのかというチェックをするための指標を少し入れておいた方がいいのではないのかなと。それを例えば3年後にきちんとチェックして大丈夫だ、なのか、もう一度しっかりと組み直さないといけないんだ、であるとか。何かそういったものが見られるものを、少しここでも書き込んだ方がいいのかなという風には思います。

【廣野委員】

私も思いますね。プランドゥチェック。これはどこの会社でもやっています。プランドゥチェック。今おっしゃった計画、実行、検討、反省、改善。これはもう合言葉でどこでもやっばり出てくるので。このプランドゥチェックという。あとは報連相。

報告・連絡・相談。そういう目線で結構お話しすると非常に伝わりやすい。それに数字がついてくるとね。おっしゃったみたいに目標5件、実績8件とかね。ただ漏れるところを探すのが仕事じゃないので、漏れる前にどれだけ手を打つかということの方が市民は求めますよという。遅いんですよ、漏れてからでは。漏れる前にカバーを替えてくださいとね。対策をとということで。そういうものじゃないかなという。

【平山委員】

例えば、漏水調査をして大事故になる前にきちんと修繕できましたよといったものが、年間1件はちゃんとありますよとか。

【北出委員】

漏水調査というのは定期的にやっらっしゃるものなのか、漏水がありますよという感じで連絡があつてされるもの？どういふことでしょうか。

【事務局 丹羽課長】

漏水調査につきましては、区域を決めまして毎年やっております。定期的に進めております。

【平山委員】

全地区毎年1回はやっています。それも目標だと思うんですよね。それをきちんとできていますよという。

【廣野委員】

一回、回るのに何年かかるのか、何か月かかるのかというね。先回何月やりまして、去年の8月と。ここはあと2年後の何月ですとかね。そういう具体的な作業予定を出す。

【北出委員】

計画的にと書いてあっても、よくわからないですね。こうすることをこうしてやっているんですよというね。

【事務局 丹羽課長】

計画的にという言葉なんですけども、地区を決めまして、小牧市としては10年サイクルで小牧市を全部調査するように今なっております。ですから、一度調査すると次に来るのは10年後です。

【廣野委員】 わかりやすいですね。

【萩原座長】

只今のご意見の中で、このビジョンの中でね。ある程度の数値目標とか、そういうことを示した方がとてもわかりやすいし。というお話ですけど、この点は事務局として何かご意見はございますか。

【事務局 伊藤課長】

確かに今後この計画を進捗管理していかなければなりません。第7章でPDCAの部分の記載もする予定ではあるんですが、実際何をもって管理していくかという、今は表現だけでございますので。ある程度、数値目標というのも掲げられるものにつきましては、どういった数値がいいかということも含めて検討させていただきたいと思います。

【萩原座長】

かなり大変な作業になるかもしれませんが、数値目標の設定とPDCAの表記について、しっかり検討していただくことで。

【平山委員】

それがしっかりできるということは、アセットマネジメントもしっかりできるというこ

とつながっていきますので。なので、そこは少し汗をかいていただいて。要は今回現状分析ということで、3章の部分で様々な指標であるとかPIとか出されましたけど、そここの基本目標、或いは4章、5章をきちんとリンクするということが大事だと思います。是非そこはお願いしたいと思います。逆にそれができていると、毎年広報誌等でこの目標を達成しましたよとか。そういったことを市民に対して、やっぱり情報をちゃんと出せるツールになりますよね。

【廣野委員】

その通りですね。

【平山委員】

そこは是非作るのであれば、そこまで努力いただければと思います。

【萩原座長】

その他に何かご意見等ございますでしょうか。

【平山委員】

すごく細かなことでもいいですか？

【萩原座長】

はい。

【平山委員】

ちょっとブームにのっかっているような感じで申し訳ないですけど。例えばSDGsとか、そういったことというのは求められたりはしないのですか。例えば市長部局というか。小牧市の上下水道はSDGsにどう貢献するのかみたいな。そうするとやっぱりこのビジョンとか経営戦略にも触れないわけにはいかないかと思うんですけど、それは現状どういう状況なんですかね。

【事務局 梶田次長】

市としてSDGsに対して取り組むということで、こちらの方、ちょっと遅いかもしれませんが、今度市役所の方の係長以上か課長以上か記憶にないですけど、そういうセミナーを予定しております。市としてこの辺は取り組んでいきたいということで。当然、結果的に持続可能にしていく上では同じ視点だと思いますので、その辺の要素も取り組みながら、まとめていく内容になっていくと思っています。

【萩原座長】

いま平山委員から指摘があるまで、まったく気がつきませんでした。最近の総務省の地方制度調査会に関連する議事録を見ていると、いきなりポッとSDGsが出てきたりすることがあります。SDGs、今一生懸命国もあげて総務省も取り組んでいるでしょうから小牧市としても是非そのSDGsに向けた取り組みの方向性をビジョンに落とし込んでいくのもありなのかもしれないと思います。

【平山委員】

もしくはそれぞれの施策であるとか。これはSDGsの何々に関連していますよみたいな、そういう紐づけもあるかもしれないですけど。でも、そもそも市民の方にSDGsって言われて何だろうってなることもなるかもしれないですけど。

【萩原座長】

時代や考え方なんですね、これって。SDGsね、他市でもちょっと関わっていた時に、本当に誰一人取り残されない社会を作っていこうという発想の中でこれ、SDGsが出てきました。そういう観点、是非大事にご検討ください。その他に何かご意見とかございますか。よろしいでしょうか。それでは特にこの他にご意見等もないようですので、3点目終了させていただきますまして、4点目、その他について事務局の説明をお願い致します。

【事務局 伊藤課長】

1点、次回の懇話会の予定をさせていただいております。次回につきましては9月30日の月曜日午後2時から。会場につきましては、この本庁舎の会場を確保させていただきたいと思っておりますので、まずはお日にちと時間ですね。9月30日の月曜日午後2時からご予約の程、お願いしたいと思っております。お忙しいところ誠に申し訳ございませんが、宜しくお願い致します。

【萩原座長】

只今のご説明につきまして、何かご質問等ございますか。9月30日午後2時。特にご質問等ございませんか。それではご質問ないようですので、以上をもちまして本日予定された議事、終了致します。皆様におかれましては議事進行にご協力感謝申し上げます、座長の座を終えさせていただきます。ありがとうございました。

【事務局 梶田次長】

これをもちまして、第3回小牧市水道事業経営懇話会を終了させていただきます。大変暑い日が本当に続いております。熱帯夜も毎日続いております。また、夏休み中ということで、子供たちが日中、普段と違った動きをしておりますので、お帰りの際につきまして

は一層の安全運転で気をつけてお帰りいただければと思います。本日はありがとうございました。